

## 平成 26 年度 千葉県学校薬剤師会研修会報告

報告者：小西弘晃（千葉県学校薬剤師会副会長）

3月1日（日）春寒小雨のぱらつく中130名あまりの方々が集い、平成26年度最後の千葉県学校薬剤師会研修会が千葉県薬剤師会会議室にて開催されました。

冒頭、元千葉県学校薬剤師会会長 小磯 利夫先生の訃報報告がございました。ご冥福をお祈りいたします。講演1として、千葉県養護教諭会深山 結花会長をお招きし「学校での感染症対策の現状とは」と題し、講演いただきました。歴史ある千葉県養護教諭会の組織・活動の話から始まり、「養護教諭のための対応マニュアル」（当日参加者に進呈）作成に至るきっかけ（2009年の新型インフルエンザ発生時の対応経験を次に生かすこと）を拝聴し、会としても身の引き締まる思いでした。最後には学校薬剤師へ望むことということで、薬剤師ならではの情報の提供や安価な薬品や衛生材料等の紹介をいただきたい旨の話や、事例紹介を含めた保健教育における連携がありました。また、これからもより良い学校保健推進のため連携強化を望まれておりました。

続いて、「ディスカッション&ミニレクチャー」という、県学薬として初の試みを行いました。3つの質問（環境衛生検査の現場で直面する出来事に対する対処法）について、各々数名でディスカッションをいただき、その後常任委員から各項目でミニレクチャーを行うというもので、今回は、「照度」「換気」「プール」を取り上げました。大人数の研修会なので、SGDの

ようにテーブルに分かれての作業はできないため、近くの机の方々5名程度でディスカッションしていただいたが、非常に活発に意見交換がされていました。

講演2では、千葉市薬剤師会学薬委員長（千葉県学校薬剤師会常任委員）の大野定行先生と、千葉県学校薬剤師会会長の畑中範子先生それぞれに、「実践例から学ぶ生徒へのくすり教育の授業」と題して、講演いただきました。大野先生からは、平成22年度から実施している千葉市学校保健会主催の「子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業」としての「薬の正しい使い方教室」の紹介が行われました。生徒に対し事前・事後にアンケートをとることで理解度がわかること、教職員に対しアンケートをとることで、講義内容の精査ができることを再認識いたしました。畑中先生からは、保健体育科教諭とのティームティーチング（T.T.）実施に当たるまでの流れ及びその授業風景を講演いただきました。先方がある関係でT・Tのハードルは非常に高いように思われますが、保健体育科教諭との綿密な打ち合わせにより、単独ではできない授業が展開されることを学びました。我々学校薬剤師単独では「総合学習」として学年生徒を集めた場での「くすりの講演」は出来ませんが、国が義務付けている「くすり教育」の授業を行うことは出来ないため、行政を巻き込んだ事業を行うか、根気よく学校側と話し合いT.T.を行うことが必要であることが解りました。